

---

# チャット

夢月 夜桜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

チャット

### 【Nコード】

N0462K

### 【作者名】

夢月 夜桜

### 【あらすじ】

チャット

普段気ままに使うことがあるかもしれない。チャットで現実ではありえない事件がおきてしまったとき……

物語は、チャットと現実と魔術、そして、ムーンとレビアが交差するとき物語は始まる！

# START (前書き)

## 登場人物紹介

# START

レビア ー (南 杏奈)  
みなみ あんな

メイン主人公。性別。基本的にこの人が、主人公！ 中1 誕生日 7月7日

ムーン (天川 瑠璃)  
あまかわ るり

メインヒロイン。性別。超！お金持ち！中1 誕生日 6月24日

ライト (谷川 光)  
たにがわ ひかる

ヒロイン。性別。かなりのイケ面。 中3 誕生日 9月13日

さつき (新田 麻厘)  
にった ゆり

ヒロイン。性別。とっても、優しい。 中2 誕生日 5月2日

この話は、本当の事とは、全く関係ありません。

## ちょっと長めなOPEN

このハデな機械。私の好きなマリンブルーの色をしている。そして、きらきらした赤いバラのシールが貼られている。そう、これは、私の機械。

この機械は、今社会的な現象を起こし、さらには、大人だけでもなく国民の大半が持っているチヨー人気の機械。

この機械の目的は、なんとチャットをするためだけ物！。

こんな機械と最初はみんな思っていたけど、でもやってみると思っていたよりも、すごく楽しい。

携帯電話みたいな物だけど、携帯電話より操作は簡単だし、何よりも、通料が無料で、本体価格も無料でね、それに、リアルタイムで会話がし放題なの。

こんなに無料であつたら、たいいていの人は買おうと思うだろう。実際には、この機械の宣伝がテレビなどで流れ始めたら、売り上げがとっても伸びたみたいで、売り切れが続出したの。私、正直とてもおどろいたの。

でも、こんな事をやって業者は損をしないのだろうか。そう思っている人も数多いと思う。しかし、その事の詳しいことは、わからない。

ただ、うわさでは政府が絡んでいる、らしい。とにかく、詳しいことは、わからないのだった。

システムは、学校の様になっている。クラブから、塾やさらには、料理教室まで、あるのだった。

私は、探偵クラブに入っている。このクラブは、みんなでクイズ大会をしたり、推理小説を読んだ感想を書いたり、小説を書いたりす

るのっただ。かつては、警察と協力して、現実の事件を解いたこともあるようだった。でも、その事実を知っている者は、1人もいない。

それに、ただ今の部員数は5人である。多いクラブでは、100人以上いるのに少ないクラブでは、3人とかもある。人数が少なうって、1度、廃部にまでなりかけた。

そんなクラブに、ある日1人の少女がやってきたのだった。

これが、ある事件の始まりであったのだ。

その子のハードルネームは、ムーンと言う。意味は、教えてくれなかった。それに私のことをレビアと呼ぶ。みんなは、私のことをレビと呼ぶのに……

それにいつも朝7時ちょうどに来て、8時に帰り、お昼12時に来て、1時に帰り、夜は7時に来て10時に帰る

のが、いつものことだったのだ。自分から、話すことはないのに、私にはしゃべりかけてくる。例えば、学校のことや友達のことを話すのだった……そのため、私にとって、とっても謎の人だったのだ。

でも、そのいつもの事がいきなり変わった。この時、私はきずいていればよかった。もし、きずいていれば、未来は絶対に変わった！でも、このときの私は、きずく事ができなかった。もう、そのことを悔やんでも仕方がない。もし過去に戻れるのなら、このときに戻りたい……

ある日みんなでクイズ大会をしている時に、突然ムーンが話しかけてきた。私は、突然話にめったにしゃべらないムーンが話しかけてきたから、画面が一瞬空白になった。



OF <計画編> (前書き)

今回は、OFの話です。この話は、<実践編>もありません。急な話の展開についていけない……

OF <計画編>

話した内容は、こんな不思議な話！。

ムーン>皆さん、お城に囚われた姫を助けてください。

ライト>どういうこと？

さつき>荒らしですか？

ムーン>本当のことです！

レビア>でも、こんな事ってありえるの？

ライト>確かに！そんなのって、ゲームの世界の話だよね・・・

さつき>やっぱり、荒らし？

ムーン>信じてくれないのでしたらいいです。

ライト>でも、おれ少し興味があるから詳しいこと知りたい！

レビア>私も！

ムーン>ここで話すのも少し難ですので、みんなで直接あって話します。

さつき>どこで？

ムーン>私の家です。

ライト>初めて会うのに・・・

レビア>家が・・・

ムーン>皆さん参加できますか？

レビア>日にちにもよるけどできる！

ライト>おれもレビと一緒に、日にちにもよるけどできるはず！

さつき>みんなが、参加するのだったら私も行く

さつき>私も少しは興味があるしね

ムーン>では、日にちと時間はいつにしますか？

ライト>おれは、いつでもいい！

ライト>レビは？

レビア>私はいつでも・・・

さつき>私も・・・

ムーン>では、明日、朝9時に夕津木駅に来てください

ライト>その日は、空いてるからOK

さつき>私は、午後から用事があつたけどお母さんがいいって

レビア>私もOK

さつき>眠くなっちゃた

さつき>おやすみなさい

さつきさんが、退室されました

レビア>ドラマがはじまちゃう・・・

レビア>明日はヨロシク<ムーン

レビアさんが退室しました

ライト>みんな帰っちゃった・・・

ライト>俺も帰る！

ライト>ムーン>明日はよろしくな！

ムーン>このことは、このメンバー以外に誰にも言わないで下さい。

ムーン>よろしくお願ひします。

ライト>もちろん、おk

ライト>バイバイ

ライトさんが退室しました。

ムーン>私も準備をはじめますか

ムーンさんが退室しました

こんな急展開で、話が進んでいって正直ちょーびっくりした・・・  
それに、私はこの話が、まだ本当の事だとは信じられてない。ムーン  
は、こう言っていたがこれも本当の事はまったく分からない。も  
しかしたら、みんなだまされているかもしれない。そんなことを考  
えていたら、怖くなってきた。

でも、明日になれば全てが分かる、はずでしょ・・・



OF <計画編> (後書き)

次回は、いよいよOFが現実のものに・・・

OF へ実践編へ(前書き)

いよいよOFが現実になった。

朝になった。太陽の光がまぶしい。私は、眠さのあまり2回も大きなあくびをしてしまうほど、眠かったのだ。昨日は、ムーンのことを考えていてなかなか眠れなかったのだ。しまいには、ムーンの事をうたがってしまったのだった。もし、だまされていたら・・・思い出しただけでも恐ろしい事を考えていたのだった。しかし、朝になってしまったからには、どうしようもない。そんなこんな考えていて、ついには出かける時間になってしまったのだった。

眠い中、なんとか駅に着いた。なんか休日だからとつても混んでる。まず、人にぶつからずに歩けるか歩けないかの問題ほどだ。それでもなんとか、約束の場所に着いた。

なんとそこには、背の高い美少年がたっていた！ライト？こんなに格好いい人がちかくにいるなんて・・・すると、彼のほうから声をかけてきた。

「さつきさんですか？」

なんかすごくかっこいい声。聞いているだけでも、胸がドキドキしちゃう感じの美声！

「いえ、違います。ライトさんですか？」

すごくドキドキした！顔が、赤くなっちゃったかも・・・とにかくすごく緊張した。するとライト(?)が声をかけてきた。

「もしかして、チャットのレビアさん？」

なんと、本当にこのかっこいい人が、ライトさんのようだ！こんなにかっこいい人と毎日話していたなんてちょう感動！するとここに1人の少女が、やってきた。さつき？て思ったなら、むこうから声をかけてきた！

「レビアさん？」

やっぱり、さつきさんだ！

「さつきさんですか？」

と声をかけたら、なんと

「そうですけど」

なんて言われた。

「後は、ムーンが来るだけ」

ライトが言った。すっかり忘れていた。

時計を見たら、もう約束の9時まじえ後1分のところに、駅に大型リムジン……マンガの世界にありそうな大きさ！だれのかな？みんな口々に騒いでる。そうしたら、なんとその大型リムジンが駅のど真ん中に止まった。みんなとてもおどろいた！

さらに驚いた事に、車の中から私たちとあまり変わらない年頃の女の子が1人おりてきた。

そして、私たちのいるほうにその女の子は、歩いてきた。もうみんなぼかんとしちやってる。すると少女が、突然私たちに声をかけてきた。

「私の名前はムーン。みなさんは、ライトさん、さつきさん、それにレビアさんであってますね。」

え……

まさかこの人がムーンなんて……私は驚いて声もでなかった。他の2人もいっしょになった。するとムーンが、手招きをしてきた。催眠術に、かかったような足取りでムーンの車というかリムジンに、乗った。

まさかこれが、平和な日常との別れになるなんて……

家の見た目が広い！と言ううか、広いでは表せない感じの大きさがある。あまりの大きさに、見とれていたらムーンさんが不思議そうな顔で、私の顔を覗き込んできた。

「ここはなに？」

ライトが、本当に不安そうな顔で聞く。

「私の家だけど」

と、誰かの声がした。

えっ………。

ここが、人が住む家？しかも、声が、聞きなれない透き通るような不思議な声だったからこれが、ムーンさんの家？まさか……でも、1人を除いてみんな驚いた顔をしている。その1人は、当たり前のような顔でむしろ、驚いている私たちの顔に驚いている。それは、予想通りムーンさんだ！

「まさか、ムーンさんの家？」

やっと声が出た。なんと、驚く事にムーンは

「私の家では狭かったかしら……」

まで言ったの！これよりも、広い家ていうのが存在するの？

「それとも、母の家のほうが良かったかしら？」

………。意味が、わからん！もしかして、ここはムーンさんだけの家っていうこと？

「……、いいです。」

とっさ答えたのは、さつき。

「とりあえず、外で話すのもどうかと思うので、家に上がってください」

あ、そういえば私たち外だったんだ。

なんとなく、外とは思えない感じの場所だったから……ムーンさんが、歩き出した。

私も、後に続いて、歩いた。

歩いて、10分くらい。私たちは一言もしゃべらなかつた。

だって、私はこんなに大きな家で、いまだに頭の中が、混乱してるし、初めて会った相手になんて話したら、いいのかわからないしい・

・  
・  
そういうしてるうちに、ようやくムーンさんの部屋までたどり着いた。

やっぱり、ムーンさんの部屋も広いなあ・・・

この広々とした屋敷の中で、1番広いんじゃないのかな？

「いすに座って」

ムーンさんが、言った。

素直に、私にしたがった。

他のみんなは、少し戸惑っているみたい

でも、それも当たり前か。

みんな、突然こんなに大きな家に連れて行かれたしね・・・

これで、疑っていないほうがいいようなのかもね

でも、私が座ったらさつきも座った。

最後に、ライトも座った。

すると、さつきが、

「自己紹介まだだね」

と言った。

「そういえば、そうだな！」

ライトも言った。

「そうですね。」

ムーンさん。

やっぱり、ムーンさんは、お嬢様だから言葉遣いも、いいし・・・

私も、こんな風な人になれたらなあ。いいのにな。

それにしても、自己紹介か・・・

なんか、懐かしいな・・・

自己紹介なんて、小学校の入学式にやったのが最後だったからね。

## 自己紹介

自己紹介。

だからからはじめるのかな？

「ねえ、自己紹介だからからはじめる？」

さつきさんからかなあ？

「あ、じゃあ俺がやるよ！」

「あ、でも自己紹介するとき言うことは、自分の本名と住んでいるところを言ってね」

なんか、さつきさんってしっかりしてるなあ・・・

私もいつか、あんな人みたいになりたいな。

「了解！」

「それじゃあ改めて、」

「俺の名前は、谷川<sup>たにかわひがる</sup>光 だ！よろしく！住んでいるのは、月が浜」

「うそ！近くない！？」

そう声に出したのは、さつきさん。

「じゃあ、次はさつきさんでいいですか？」

あ、次はさつきさんかあ・・・

「わかった！」

「私の名前は、新田<sup>にったまり</sup>麻里。住んでいるところは、月が丘。よろしくね」

へえー。月が浜に住んでいるんだあ。

「じゃあ、次レビアさんね」

「あ、はいわかりました。私の名前は、南<sup>みなみあんな</sup>杏奈です。住んでいるところは、夕月街です。よろしくお願ひします。」

ああー緊張した。大丈夫かな・・・

「そういえば、ムーンさんは？」

さつきが質問した。すごい、勇気があなあ・・・

「私の名前は、天川<sup>あまかわるじ</sup>瑠璃です。」

「あの、天川グループの跡取りなの？」

さつきが、聞いた。なんと、答えは予想してた通りのYESだった。  
「えっ!!!!!!!!!!!!!!」

それでも、驚いてしまっついで、声が外に出ちゃった！

だって、天川グループって国よりもお金持ちで、売り上げも年間100兆円は、必ず超えるほどの偉大な会社なの！

そのわけは、天川グループではコンビにからデパートさらには、1つの大きな国を作ってしまうような感じのところなの！こんな、お金持ちが身近にいるなんて驚いた！

スゴスギル・・・

こんなことで、自己紹介は、終わった

## オフ会 　　く終了く

自己紹介が、終わったあと私たちはお開きになった。どうしてかって言つとさつきさんが、「家を見学したい！」

つて、言ったからなんと快くムーンさんがOKつて言ったからムーンさんによって家を案内してもらえる事になった。こんな大きな家めったに見る事ができないから、実は、私もすごく嬉しい(^|\_・)

・ そのあとの事は、省略するけど

普段、見れないものがたくさんあって面白かった(ゝゝ)

得に、驚いたのがノートパソコンがあったことかな・・・私は、ノートパソコンを買ってくれないから凄くうらやましい・・・

最後にムーンさんが、

「また、来て下さい」って言ってくれた。また、行きたいなあって思った。

あの時まで・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0462k/>

---

チャット

2011年5月11日21時46分発行